

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	キリスト教と文化研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. キリスト教主義教育を大学教育の現場で実現するための調査・研究を行う。	→学内のキリスト教関係授業を支援する研究プロジェクトを発足させる。	B	B	B	B	B
2. キリスト教と文化とが会う問題をあつかう学際的な研究プロジェクトを推進する。	→学際的な共同研究プロジェクトを複数実施し、その研究成果にもとづいて研究紀要等を年1回発行する。	B	B	B	B	A
3. グローバル化された現代社会が直面する諸問題を啓発するための企画を実施する。	→現代社会が直面する問題に関するフォーラムを年4回以上開催する。	B	B	B	B	A
4. センター研究活動の成果を、迅速かつわかりやすく学内外に周知する。	→センターの活動・研究をデジタル化して公表できる体制を構築する。	B	B	B	B	B
5. 日本におけるキリスト教平和学の情報発信・交換の拠点となる。	→他のキリスト教関連団体、平和活動団体等と共同した企画を年1回実施する。	C	C	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 宗教主事会と連携、協力しながら、キリスト教学の授業及びチャペルの改善等に関するFD研究会を学期に1回開催した。「キリスト教主義教育研究室」(キ教研)の歴史とその評価について研究会を開催した。また、外部から講師を招き、「日本におけるキリスト教学校の礼拝の意味とは」について研究会を開催した。「ミッション・スクール」に関して公開講演会を開催した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究会での各担当者の発表内容から、各自の授業内容、チャペルの教育的効果などについて自己点検することができた。また、キリスト教主義教育の諸課題、展望について意見交換をする機会が与えられた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も宗教主事会と連携しながら、FD研究会に継続的に参加する。神学部の教員を発表者に加え、研究会をより充実したものとする。「関西学院におけるキリスト教主義教育の展開」プロジェクトを中心に、さらなる調査、研究会を通してキリスト教主義教育の内実化を図る。</p> <p>その他 「建学の精神考第4集」の編集作業を開始した。</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「現代文化とキリスト教」プロジェクト研究員を中心に、現代文化におけるキリスト教的表現形式をポップカルチャー、サブカルチャーを題材として、学際的に分析、解釈を試みる研究会を3回開催した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「現代文化とキリスト教」プロジェクトの第1回研究発表内容を紀要「関西学院大学キリスト教と文化」第15号(2014年3月31日発行)において報告した。現代文化において映画や漫画を通して、キリスト教が表現され、日本におけるキリスト教の受容形式の一つであることが分析された。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 「現代文化とキリスト教」プロジェクトを中心に、キリスト教と文化の出会いを多角的な視点から分析する、学際的な研究会を継続的に開催する。</p> <p>その他 昨年度までの「ミナト神戸に宗教多元主義を探る」プロジェクトの成果として出版した「ミナト神戸の宗教とコミュニティ」(神戸新聞総合出版)が第37回井植文化賞(報道出版部門)を受賞した。(2013年10月5日)</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「東アジアの和解とレイシズムーヘイトスピーチを支える日本社会を問う」と題する公開講演会を開催した。また、「東アジアの平和」プロジェクトによる「東アジアの和解と平和ー日韓キリスト教史の視点から」と題する研究会を開催した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 「東アジアの和解とレイシズムーヘイトスピーチを支える日本社会を問う」と題する公開講演会では、多くの学生、参加者から質問・コメントなどが寄せられ、日本国内およびグローバルに広がる差別、人権問題を啓発する機会となった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 公開講演会、フォーラム、研究会を通して継続的に現代社会が直面する諸問題を啓発する企画を実施する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 公開講演会、研究会の内容および活動報告、予告をポスター、チラシの配布に加えて、RCCのホームページ上で公開、公表した。またRCCニュースレターを同様にホームページで公表した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 公開講演会、研究会の参加者への周知の手段としてチラシの配布だけでは不十分であり、特に学生への周知はホームページがより有効であった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か ホームページ上で公表を継続して進めると同時に、より有効な周知手段を検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標5	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 個別のプロジェクトにおいて他大学、研究機関の訪問、調査が行われた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か キリスト教平和学の情報発信、交換の拠点となるための具体的な連携はなされておらず、今後の検討課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か キリスト教平和学の発信をしている研究機関と連絡をとり、訪問などによる意見交換、交流を進める中で、拠点となる準備をする必要がある。	☆
		その他	☆
備考			☆